

# 感染症発生動向調査委員会報告 5月

## 《今月のトピックス》

- 風しんの流行が続いています。

### 全数把握疾患

5月期に報告された全数把握疾患

腸管出血性大腸菌感染症	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件
デング熱	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
レジオネラ症	2件	破傷風	1件
アメーバ赤痢	3件	風しん	88件

#### <腸管出血性大腸菌感染症>

1件(O157 VT2)の報告がありました。感染経路等調査中です。

#### <デング熱>

2件の報告がありました。どちらも渡航先(インドネシアバリ島)での感染が推定されています。

#### <レジオネラ症>

肺炎型 1 件、ポンティアック熱型 1 件の報告がありました。肺炎型は国内での水系感染が推定されており、ポンティアック熱型は感染経路等不明です。

#### <アメーバ赤痢>

腸管アメーバ症3件の報告がありました。1件は国内での異性間性的接触、もう1件は中国、マレーシアでの感染が推定されています。残るもう1件は感染経路感染地域等不明です。

#### <後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)>

1件の報告がありました。全身のリンパ節腫脹を認め、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

#### <侵襲性肺炎球菌感染症>

6件の報告があり、それぞれの症例は、①60歳代女性、ワクチン接種歴無し。症状は発熱、意識障害、項部硬直で髄膜炎と診断されています。血清型11型(血液より)。娘、孫に感冒様症状あり。②70歳代男性。ワクチン接種歴不明。症状は発熱と意識障害で、髄膜炎と診断されています。血清型22型(血液、髄液より)。③80歳代男性。ワクチン接種歴無し。症状は発熱、咳、全身倦怠感で肺炎と診断されています。血清型19型(血液より)。④80歳代女性。ワクチン接種歴無し。症状は発熱、咳で、肺炎と診断され、口腔内分泌物の誤嚥が原因と推定されています。血清型15型(血液より)。⑤70歳代女性。ワクチン接種歴不明。症状は頭痛、発熱と倦怠感で、血液から肺炎球菌が検出されています。血清型14型(血液より)。⑥1歳男児。ワクチン接種歴3回(7価結合型)有り。症状は発熱、咳、痙攣と項部硬直。血液、髄液より肺炎球菌が検出されています。血清型は現在検査中です。今回、60歳以上の症例のすべてで予防接種歴が確認できませんでした。予防にはワクチン接種が重要です。

#### <破傷風>

1件の60歳代男性の報告がありました。国内での労働環境からの感染が推定されています。

#### <風しん>

88件(男性66件、女性22件)の報告がありました。10件を除いて予防接種歴が無いか確認できませんでした。風しんは現在流行が続いています。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しんHI抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています※。さらに、流行の中心は予防接種歴が無い、あるいは不明の20～40歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。4月22日から予防接種の助成が始まっています。

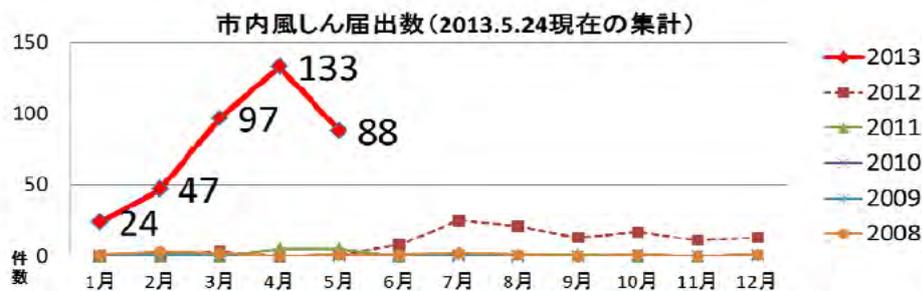
※風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言

<http://idsc.nih.gov/jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf>

◆横浜市感染症臨時情報:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinj/>

◆横浜市の風しん予防接種助成の詳細(横浜市保健所:緊急風しん対策について)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/genre/kansensyo/vaccination/rubella.html>



平成25年 週一月日対照表

第17週	4月22日～ 4月28日
第18週	4月29日～ 5月 5日
第19週	5月 6日～ 5月12日
第20週	5月13日～ 5月19日
第21週	5月20日～ 5月26日

### 定点把握疾患

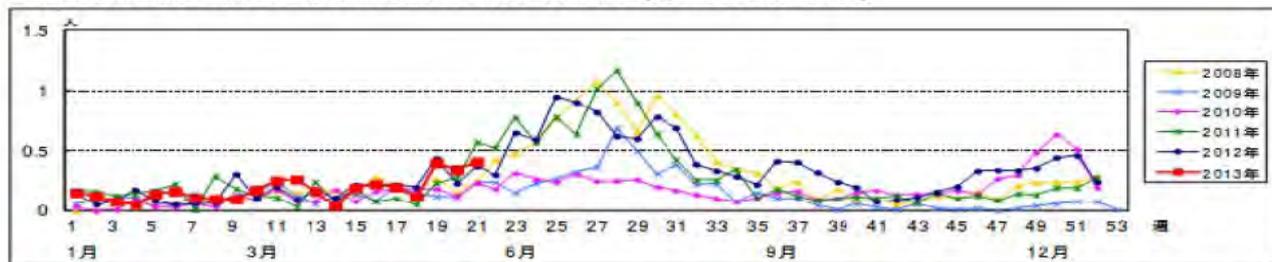
平成25年4月22日から平成25年5月26日まで(平成25年第17週から平成25年第21週まで。ただし、性感染症については平成25年4月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

#### 1 患者定点からの情報

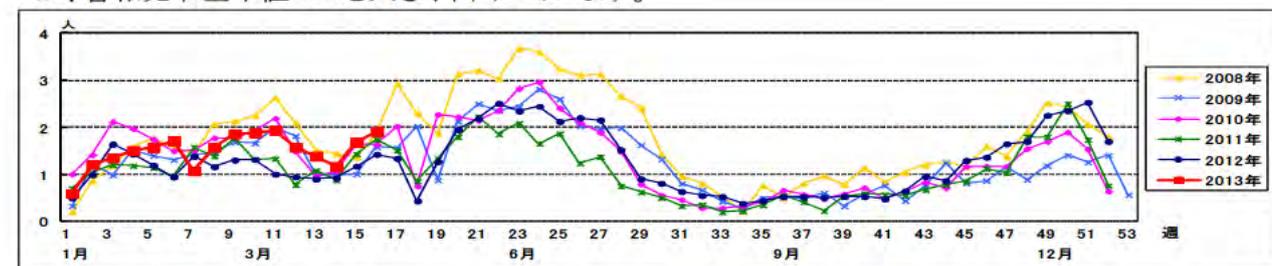
市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。

なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

<咽頭結膜熱> 市全体で第21週0.41とやや増加しています。例年夏季に流行する疾患なので、今後の注意が必要です。予防対策は、うがいや手洗いが重要です。また、プールの前後はシャワーをよく浴びるようにしましょう。学校保健安全法上は、第二種の学校感染症に分類され、出席停止の対象となっており、登校基準は「主要症状が消退した後2日を経過するまで出席停止とする。ただし、病状により伝染のおそれがないと認められたときはこの限りではない。」とされています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 第21週は市全体で定点あたり2.19と、やや報告数が多くなっていますが、警報発令基準値8.00を大きく下回っています。



<性感染症> 4月は、性器クラミジア感染症は男性が22件、女性が12件でした。性器ヘルペス感染症は男性が7件、女性が3件です。尖圭コンジローマは男性6件、女性が0件でした。淋菌感染症は男性が13件、女性が1件でした。

<基幹定点週報> 全国ではマイコプラズマ肺炎が定点あたり1.00を超える状況が長らく続いていましたが、昨年の年末に1.00を下回り、第20週0.49、第21週0.51と落ち着いてきています。横浜市でも第17週0.75、第18週2.00、第19週0.50、第20週0.50、第21週0.00と、以前に比べて報告数はやや落ち着いてきました。第17週に無菌性髄膜炎の報告が1件(7歳女児。髄液よりウイルス検索中)ありました。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報> 4月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症12件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

## 2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

### <ウイルス検査>

5月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点41件(鼻咽頭ぬぐい液32件、ふん便5件、うがい液1件、不明3件)、内科定点1件(鼻咽頭ぬぐい液)、基幹定点5件(鼻咽頭ぬぐい液3件、ふん便2件、喀痰1件、髄液1件、血清1件)、眼科定点2件(眼脂)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は上気道炎19人、下気道炎4人、胃腸炎6人、インフルエンザ5人、ヒューマンメタニューモウイルス感染症2人、口内炎2人、突発性発疹症疑い1人、りんご病1人、風疹疑い1人、内科定点はインフルエンザ1人、基幹定点は気道炎2人、肺炎1人、髄膜炎1人、胃腸炎1人、眼科定点は流行性角膜炎2人でした。

6月10日現在、小児科定点のインフルエンザ患者5人と内科定点のインフルエンザ患者1人からインフルエンザB型ウイルス、上気道炎患者2人からアデノウイルス1型と3型、胃腸炎患者1人からアデノウイルス(型未同定)が分離されています。これ以外に遺伝子検査では、小児科定点のヒューマンメタニューモウイルス感染症患者2人と上気道炎患者2人からヒューマンメタニューモウイルス(1人はライノウイルスと重複)、上・下気道炎患者各1人からパラインフルエンザウイルス、上気道炎患者1人からRSウイルスとライノウイルス、上気道炎患者1人からライノウイルスとヒトボカウイルス、胃腸炎患者1人からロタウイルスの遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

### <細菌検査>

5月の感染性胃腸炎関係の受付は、小児科定点から1件、基幹定点から7件、定点以外の医療機関等からは8件あり、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT1&2、O157:H-,VT2、O26:H11,VT1)、腸管毒素原性大腸菌(O6:H16,ST+, O159:H+,ST+)、サルモネラ(*S.Enteritidis*)、パラチフスA菌(インドに渡航)が検出された。

その他の感染症は小児科から11件、その他が33件であった。バンコマイシン耐性腸球菌は19株すべてvanB型の*Enterococcus faecium*であった。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(5月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	5月			2013年1月～5月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌					1	
腸管病原性大腸菌					1	
腸管出血性大腸菌			3			7
腸管毒素原性大腸菌		2			2	
チフス菌					3	
パラチフスA菌			1			1
サルモネラ		1		1	17	
不検出	1	4	4	2	26	8

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	5月			2013年1月～5月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌				1	1	
T1				3		
T2						
T6	1			3		
T4	2			8		
T12	2			3		
T25	1			2		
T28	1			3		
T B3264				2		
B群溶血性レンサ球菌				1		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					6	
バンコマイシン耐性腸球菌			19		1	19
インフルエンザ菌				1		1
肺炎球菌	1		11	2	3	11
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
黄色ブドウ球菌				2	4	
結核菌						10
G群溶血性レンサ球菌			1			2
緑膿菌						63
不検出	2	0	2	5	0	7

\*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】